

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター藤沢市太陽の家しいの実学園			公表日	2025年 3月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20	12		手狭に感じることもある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	17	ハローワークや求人案内のポスティング活動を行っている。また、多くの実習生を受け入れ就業につなげる活動を行っている。クラス運営についても、工夫を行い事業運営の継続を図っている。	更なる事業周知を行い、地域への理解を含め、魅力ある職場としていく。事業継続のために、職員の幅広い知識の獲得を行う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	17		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	18	施設管理担当と協議の上、できる範囲の補修に努めている。また、行政とも協議している。毎日こまめな消毒、清掃を徹底している。	施設の老朽化に伴い、各所の劣化は否めない。行政とも協議の上、補修に努める。水道の位置など、造りがひと昔前の造りで使いづらい点がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	33			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18	10	朝礼や夕礼の時に、ヒヤリハットを共有している。個別にグループで討議を行っている。	課題の抽出はある程度できているものの、改善活動にあまりできていない。特にチェックとアクションが不十分に感じる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	26	6	第三者評価の受審を行った。	改善が足りない点も多くあることは感じている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	11	都度意見をうかがえる環境は設定している。	改善が足りない点も多くあることは感じている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	29	2	今年度実施をした。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	30	2	常勤職員においては、一年に一度は外部研修に参加できる機会を確保した。	研修受講時などの、内部の体制の確保。非常勤職員の研修の機会の確保。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	31	1	ホームページを通じて外部へ発信を行った。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	32		計画を意識した支援を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	28	4	適時、時間をつくり会議を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	28	4	グループごとに支援計画を共有し支援をしている。計画書とは別に日々の記録の表紙に課題を記載し、形骸化を防止に努めている。	形骸化しない支援。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24	4		共通したアセスメントシートがあるとよい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	29	2		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	27	4	日々のリーダーを中心として立案を行っているが、毎朝グループで検討し修正を行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30	3	グループごとの検討や共有スペースの使用においては、全体で調整し、遊具の設定を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	30	1	行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	30	1	毎朝実施している。	時間の捻出。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20	12	毎回実施している。	時間の捻出。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	31	1	毎回実施している。	時間の捻出。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	29	3	適宜実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	28	3	セルフプラン率が多く、頻度は少ない。児童発達責任者及び管理職などが中心として出席している。	現場職員の参加の機会を増やす。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	29	2	整備している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	26	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	29	1	引継ぎの機会を確保している。	提出書類の精査が必要と感じている。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	20	6		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	25	2		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	26	3	自立支援協議会、下部組織の会議体へ出席をしている。	出席機会を与えられることは、利益となるものの、依頼の多さに整理が必要と感じる。
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	24	8	個人交流の実施以外はない。	感染症の考え方の整理。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	32		お便り帳や電話・対面の会話などで伝えている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	31	1	保護者教室を実施し、年間を通じて研修機会を確保している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	32	1	実施している。		
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	32		検討会議にて討議している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	31				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	33		適宜実施している。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	20	12		保護者会の設立はできていない。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	31	1			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	32			不定期であるが、法人ホームページを通じて発信をしている。	SNS等については、実施していない。また、関係者においても、マナーに対する対策を講じられないことから、お控えいただいている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	33			同意書の下に実施している。また、机上の整理など職員への意識改善に努めさせている。	形骸化しない対策。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	32	1			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	31	1		お祭りを通じた地域交流を実施している。ボランティアの受け入れも実施している。	感染症対策と受け入れのバランスの精査。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	30	1		月一度の避難訓練や災害伝言ダイヤル等で訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	30	1		月一度の避難訓練や災害伝言ダイヤル等で訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	33			入園前のアセスメントや不定期な報告を受け把握している。服薬は必要最低限であるが、医師の指示の下実施している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	33			実施している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	30	2		策定し実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	31			必要な個所においては周知している。	年度途中から作成した。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	29	1		シートを用意し、提出しやすい環境は整備している。	形骸化しない対策。口頭による再周知活動。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	31			虐待防止マニュアル等を用いた活動。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	32			実施している。		